

日本平和委員会第58回全国定期大会

全国から意気盛んな報告、仲間づくり減少に歯止め、前進へ

NATOのゆくえ

内原・友部平和の会 伊達郷右衛門
秩父で開かれた日本平和委員会全国大会に水野・加藤・中山のお三方と参加した。小生は財政問題分散会・全体集会等に参加させてもらった。大会の2日間に沖縄基地問題・安保・憲法名古屋高裁判決など改めて考えさせられたが、特にNATO（北大西洋条約機構）について感想を述べてみたい。

① 第2次大戦が終わると同時に米ソ冷戦対決の幕が切って落とされた。その実力部隊としてそれぞれ冷戦の申し子NATO（1949年）とワルシャワ条約機構（1955年）がつけられた。この世界を二分する軍事同盟が集団的自衛権を御旗にし戦後がスタートした事は世界人類の不幸であった。

② 20世紀前半、2度の世界大戦をヨーロッパで起こし国際社会にその責任を痛切に受け止めたヨーロッパ諸国は3度起こさないために努力を重ねた。そのひとつは、それぞれの国が不戦を誓い、戦力削減の方策如何に。ふたつには国際連合や世界政府の構想に基づくヨーロッパ連合（政府）をつくる方法及び準備は如何に。三つにはその具体策として「ヨーロッパ共同体」が誕生した。これらの構想は米ソの冷戦で日陰に追いやられ長いあいだ日の目を見なかった。しかし、冷戦が終われば息を吹き返すのもまた当然の成り行きであった。

③ 1991年ソ連邦の解体は米ソ冷戦に幕を下ろした。50年前の夢がヨーロッパ諸国に戻った。統一通貨・ユーロ・ダラーが実現。欧州連合（EU）の憲法制定も多少時間を要するが作られる。そこで問題はNATO条約に基づいて駐留しているアメリカ軍をどうするかである。一つは、アメリカの世界戦争政策にはついていけないだろうと言うこと。ヨーロッパからアメリカの影響力は縮小していかざるを得ない。この流れは、条件は違おうが「武力を使わず話し合いで」「国民の生活向上を」と言う共通するも

のを持っており、東共同体構想や中南米諸国のアメリカ離れと土台をいつにする。

④ ワルシャワ条約機構はなくなった。NATO・北大西洋条約機構は何処へ行く。世界平和の潮流は日本国憲法9条の内にある。流れに逆らってその行き場を失いつつあるNATO。ソ連を負かして17年。唯一の軍事大国アメリカの君臨はすでに先が見えはじめた。以上のような事柄をベースにみんなで学習していきたいと思っている。



閉会総会でまとめ報告をする千坂事務局長

「わからない」ことだらけ

阿見平和の会 中山熙之（ひろゆき）

6月28～29日に秩父で開かれた全国大会なるものに出席した。阿見平和の会に入ったのが一昨年だから、全国大会にはもちろん初参加。

狙いは、若い衆の息吹を肌で感じる事。県の運動は高齢化が目立つ。しかし、全国的に見れば、若い力がみなぎっているのではないか。そこからエネルギーを貰おうと。

ところがだ。参加した青年問題分科会の出席者26名のうち、青年は11名。58%は高齢者。多くの県で、若い人を運動に誘うにはどうしたらいいか、道を探しているらしい。そういえば、代議員の平均年齢は61歳だとか。

なぜ、若者の運動離れが起きたのか。学生運動や青年運動や労働運動の停滞振りは、過去と比べても、外国と比べても、停滞と言わざるを得ない。老人ばかりで若手のいない運動は滅びに向かうのみ。

農業や漁業やシャッター通り商店街も後継者が足りない。が、理由はわかる。その職業では食っていけないから。わが平和運動にも後継者が不足。しかし、私には理由が不明。したがって打開策も見えない。

原水爆禁止国民平和大行進

県内行進ごくろうさまでした

08年平和行進茨城県実行委員会

原水爆禁止国民平和大行進は、1958年に開始され、今年50周年になりました。茨城コースは6月27日から7月8日までの12日間、44全ての市町村に入り、行進宣伝を行いました。

北海道から歩き続けている森悦子さん（東京ほくと医



常陸大宮市内を走る宣伝カー（水郡線コース）

療生協）も元気に茨城に入り、県内の街頭の皆さんに手を振りながら12日間行進しました。

各地で準備並びに当日の運営に当たって頂いた方々、団体に深く感謝したいと思います。ありがとうございました。

引き続き、地域、団体から広島世界大会への代表派遣の努力をお願いします。

平和かわら版

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

No. 506
月3回発行
2008.7.10



原爆症認定裁判に思う

みとみなみ平和の会 会沢 雄策

無差別大量破壊兵器である原子爆弾は、投下直後の熱線・爆風・放射線による「急性障害」と、ある程度時間が経ってから生じる放射線による「後障害」とがあります。いわゆる「原爆症」は原爆被爆後10年以上経ってからも被爆者を苦しめるので、核兵器が「悪魔の兵器」と言われる所以です。従来、国はDS86という計算式を用いて「原因確率」という考え方のもとに、きわめて厳しい条件で審査していました。その結果、「原爆症」はほとんど認められず、認定者はつい先頃までは生存被爆者25万人のうちわずか2300人弱でした。この間の「原爆症訴訟」の判決は、すべての裁判所で従来の国の審査基準の見直しをせまるもので、被爆者の救済という法の趣旨をより重視したものとと言えます。

茨城県でも、現在の被爆者総数はおおよそ510人ですが、原爆症と認定されている方はたったの1人です。私はこれまでに4～5人の被爆者の方の原爆症認定のための診断書を書きましたが、認定されたのは1人だけです。爆心地から2km以遠での被爆のため、はじめから「無理」との判断で申請をしなかった方も数人以上います。はっきりした急性症状があったり、1週間以上も爆心地付近にいた人なども、却下されています。今後ますます原爆被爆「後障害」としての、がんなどの原爆症が増えることが予想されていますので、そのような方に対する救済が重要になっています。このことから、今回の裁判所判決により厚労省の審査基準が改定されたことは、被爆者の苦しみにいくらかでも応えるものであり、さらに多くの被爆者が救済されるようにしてもらいたいと思います。

最近の実例をあげます。65才の女性で、4歳の時に長崎で入市被爆をしました。それまで被爆したことは隠してきましたが、平成14年に被爆者手帳の交付を受けました。しかしその後、特に検査をしていませんでした。数年後に当院において胃X線検査で胃癌が発見され、手術を受けましたが、発見されたときは残念ながら進行癌でした。同時に「原爆症」の申請をしたのですが、提出して

から1年後に(!)「却下」の連絡が来ました。新しい基準では認定されるはずですが残念でなりません。



平和行進に参加して

日立民商 増井 里衣子

私は今年、午後から参加しました。お昼に多賀駅近くの青少年センターで合流しました。多賀駅で友達と待ち合わせをして、青少年センターに着く頃にちょうど、行進団と一緒にになりました。

今年は平和行進60周年の年だそうですね。70歳を過ぎても日立駅から毎年歩いている方もいらっしゃいました。去年お会いした方で、去年より目が不自由になっている様子でした。毎年参加されている姿に、圧倒されました。

私は、今年で3回目の参加です。そんなにいないけれど、歩いていると沿道から・家の中から「がんばってね」「お疲れ様」と応援して下さる人がいますが、毎年同じ家の方が、言ってくださるように思います。家には、それぞれ違う政党のポスター・宗教のポスターなんか貼ってあったりして、平和の想いに対しては、党派も宗派も関係ないように感じます。

平和行進の時期になり、平和行進に参加すると夏を感じます。そして、この辺なんかより暑い、広島・長崎



日立市内を元気に行進する森さん(左端)

の悲劇が繰り返されないようにと思って歩きました。

思い出の平和行進

賛助会員 永井 一郎

東海村の平和行進がどうであったか、記憶が薄れて定かではありませんが、どうしてもこれだけはという記憶を記すことにします。

現在、総合開発が行われている常陸那珂地区は、太平洋戦争中は日本陸軍の水戸飛行場がありました。終戦後、ただちに米軍に接収され射爆撃場(練習基地)として残り、それ以後米軍が常駐しました。この基地は昭和45年に県民運動によって日本に返還が決まるまでの25年間続きました。この基地使用は周辺住民に甚大な被害をもたらしました。殺人事件を含む、墜落・誤投下等の事故は皆で355件にのぼりました。

原水爆の廃絶を最終目標にした平和行進ですが、東海村ではその他に、米軍の戦争目的の演習を中止させ基地を返還させる運動と固く結びついていました。

当時の行進団は水戸米軍射爆撃場の正門前まで行った時は必ず止まり、代表団を米軍司令部に派遣しました。粗末な兵舎の中で行進団代表と米軍士官との交渉が行われました。私も何度かこの交渉に参加しましたが、「演習を止めてくれ、基地を返してくれ」と、住民要求をはっきりつけてきた事を覚えています。

東海村は原子力研究所が出来て、平和行進にも青年労働者がたくさん参加するようになりました。日本の科学技術の研究をになう青年たちの柔らかい若々しい息吹が行進を弾ませたと感じます。

最後に、明確な意識に統一され、行進そのものが地域の住民の闘いと結びつき歩くことによって、前途が開かれるような平和行進が展開されることを期待します。

事務局便り
一昨年から県内の通し行進者を7月5日の水郡線コースの参加で終ることが出来ました。核兵器廃絶と平和への願いを持った沢山の人がお会いでき意義ある交流ができたと思います。強いて言えば新たに挑戦する人が続いてくれることを期待します。平和を願う人の手と手を結び網の目のように編むことを願って。ありがとうございました(加)